

新たな矢板中学校のレジェンドに向けて 矢板市立矢板中学校長 五味 俊 夫

1 奇襲とも言える MISSION を提案



4月1日、校長が学校経営説明会で提示したものが「Happiness」な矢板中学校の創世を学校経営の核に据えた矢中グランド・デザイン（学校経営構想図）でした。

昨年度の「学校評価」結果を見ると、これまでの本校の実態は地域や保護者から、生徒指導面を含めてマイナスイメージが払拭できず残存していました。これらのイメージを一新するねらいもあって、着任校長の意図的な「奇襲攻撃」が「Happiness」というMISSIONでした。

2 MISSION 遂行のための6本の基本姿勢

本校のグランドデザインの考え方については、職員はもとより、全生徒及び、全保護者にも4月から繰り返し説明し、理解を求めてきています。

たとえば、基本姿勢1では生徒、保護者、職員すべてが学校作りの「スタッフ」である。基本姿勢2ではこの三者は日々、「笑顔」と「挨拶」と高い

「モチベーション」を持つ。基本姿勢3ではMISSION推進のキーパーソンは「生徒会」と「3年生」である。基本姿勢4では



「Happiness」は自分、友人、クラス、部活動、学校まで拡大するよう実践するなど、これらの基本姿勢を支えるための3本の学校経営戦略（方針）も作成しました。この矢板中グランドデザイン（A4版）を生徒と保護者全員に配布し、矢板中学校創世の協力和理解を求めています。

3 新たな矢中構想1年次約9か月が経過して

4月当初から、本校職員たちは「危機意識」を認識しつつ、日々の生徒指導や学級経営、教科指導、諸行事等を担当し、関わっていただいています。これらの中で、生徒や職員、保護者が「Happiness」を色々な場面で飛び交う中学校になりつつあります。生徒会も創造的に活動し、「ねんりんピック」をはじめボランティアにも多数参加するなど、新たな、矢板中イメージを地域に発信しつつあります。

「生徒一人一人を大切にした教育」

那須塩原市立厚崎中学校長 月井 順一

1 はじめに

本校は昭和55年4月開校、マンモス校であった黒磯中学校からの分離独立の歴史を持つ学校です。現在、普通学級14、特別支援学級3、生徒数434名、教職員総数33名です。生徒は素朴で素直な生徒が多く、また、運動部活動が盛んで一昨年のソフトボール部の県大会優勝・関東大会優勝を始め、柔道部の関東・全国の連続出場等の活躍も見られます。

2 本校の教育実践

文武両道をモットーに学校経営を推進しています。また、多くの場面で「生徒一人一人を大切にした教育」を実践し、朝の学習などでも工夫しています。本校では、通常の学級単位の一斉形式の朝の学習と本人の希望で個別に支援する朝の学習の2種類を同時進行で実施しています。具体的には、学級担任は自分のクラスの朝の学習を見て、同時間帯に個別の指導を希望する生徒については、担任以外の先生（主任、副担任等）が個別に指導する形式を取り、

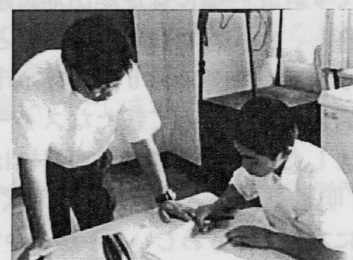
一人一人の生徒に応じて指導を行っています。

3 実践を通して

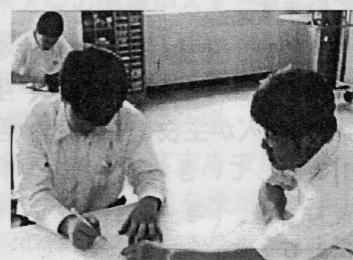
この実践を通して、感じていることをまとめてみます。

(1) 朝の学習が生徒にとっての安心感を作る時間となっている。

◎生徒にとっては、個別に先生から勉強を教えもらえる安心感がある。



(2) 教える先生側にも生徒がどこで躓いているかより理解が深まる。



◎先生にとって

も、生徒の学習の実態がよくわかり、生徒理解が深まってきた。